

1. 本園の教育目標

(1) 教育方針

キリスト教精神を土台にした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている。

- ① 生涯の土台となる心を育てる。
- ② 一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す
- ③ 豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- ④ 友だちとともに生活することに喜びを持つ心を育てる。
- ⑤ いろいろな実際体験を多く保育に取り入れ、体験や遊びを通して心身が健全に育つよう
- ⑥ 健康なからだ作りを目指す。(薄着奨励)
- ⑦ 家庭と園の連携を大切にし、保護者と教諭等が協力し、子どもの成長に手を添えていく。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

【表現】豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

- ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気づいたり、感じたりする環境について考える。特に、音やリズムに関する環境や内容について学びを深める。

【健康】体を動かす楽しさを知り、進んで運動しようとする力を育てる。

- ・個々の発達の特性を理解する。
- ・発達段階に応じた遊びや活動を考える。

【食育】各学年の発達段階における食習慣（咀嚼、姿勢、食具の使い方等）について学び、0歳児から一貫性を持った食習慣の形成につなげる。

重点項目	取り組み状況
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びや歌が足りなかったと感じる。 ・音やリズムに関してはもう少し深く取り組みが必要だった。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・研修もあり、サーキットやリレーなど昨年より体を楽しく動かすことができた。 ・サーキット運動を取り入れ、各発達段階に応じた内容で楽しみながら身体を動かすことができた。 ・オンライン研修からサーキットチャレンジを0歳から年長まで取り組んだ。次年度に繋げていきたい。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・一度スプーンに戻したことで、正しく箸を持てる子が増えた。 ・食育については、家庭との連携が必要だが、スプーンの持ち方は家庭によって違うので難しかった。 ・食事の時間だけでなく、遊びや生活の中で体幹を鍛える等他の視点からのアプローチが必要だったと思う。 ・食育については、学年、年間を通して取り組むことができた。箸への移行がスムーズで食への意欲もあった。 ・子どもたちが学びや遊びに集中できるように、保育者が子どもたちと関わるうえで必要なエネルギーを少しでも”食”の部分から手助けできるように常に考えつつ日々の給食業務に徹することができた。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすればよいかを話す機会や場を作ること、発信することも必要と思う。 ・子どもたちを中心に置き、大切なことは何か、何ができるかと考える一年だった。 ・計画はあったが、それを細分化することで、日々の保育に生かせるのだと感じたので、もっと計画的に実行できるよう理解を深めたい。 ・月案に参加して保育の共通意識を持つことができた。 ・学年で話あいながら進めてきたつもりだったが、クラスによって援助や保育内容の違いがあった。どのように確認し、展開していくのかていき考えたい。 ・一年間、縦と横のつながりを大事にしながら取り組むことができた。今後はより職員保護者と連携していきたい。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	子どもの人権、安全と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染予防のための対応をしながら取り組んできた。 ・“大切にする”とは何かを考え、意識しながら子どもたちと関わってきた。 ・園庭の環境については、今後課題を共有しながら、よりよい環境を整えていきたい。
2	教職員の資質向上・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年や近い学年担当の職員とは共通理解ができたが、全職員の理解には至らなかったため、学年や部門を超えての対話の時間などが持てる工夫をする。 ・研修の重要性は認識しているが、日々の保育の中で、参加が難しく、全職員への周知や全員参加は難しかった。 ・研修は、今年はリモートで受講することで多くの職員が学ぶ機会を与えられた。 ・職員の学びたい意欲を感じている。日々の保育の中で、話し合いや研修内容などについて、共有するためにはどのようにすればよいのか考えていきたい。
3	こども理解・指導の計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動についての研究は、思いはあるが時間が取りにくい。全スタッフが共通理解を持ち、関わる事ができるよう今後も取り組んでいきたい。 ・特別な配慮を必要とする子どもたちについては、専門機関とも連携してかわり方を学び、職員ともよりよい関わり方を考え、知ることができた。 ・特別な配慮を必要とする児に関しては、安全面からも全体で情報を共有していきたい。 ・効率の良い記録の取り方の工夫をする ・月案を通して、各々の意見を出し合うことがき、チームが意識して関わる土台が出来てきたと思う。(未満児) ・他学年、園全体の保育計画の見える化について考えていきたい。 ・学びを深める時間やシフト等課題がある。 ・必要に応じてチェック、安全点検、ヒヤリハットを記録し、話し合い改善に努めているが、玩具の配置や内容はもう少し改善点があると思う。 ・一年間の発達を見通したよりよい遊具、玩具を考えていきたい。
4	衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・年少の手洗い場の整備ができ、衛生、安全面が整った。 ・職員の検温を行うことは、基本的な健康管理につながった。 ・家庭における検温チェック、朝食の記録の協力をいただき、年間を通して病欠が少なかった。 ・掃除用具の見直しを行い、効率よく、きれいに掃除を行うことができるようになってきた。 ・遊具・玩具の消毒等のチェックの方法を考える。 ・コロナ禍にあり、衛生管理にはより気を付けてきた。子どもたちにも排せつ、手洗いの方法など伝え、実践してきたが、今後も継続していきたい。
5	家庭及び地域連携・子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育や、地域の方とのオンラインでの交流等、できることに取り組んだ。 ・コロナ禍で、家庭訪問、参観など開催できない中、担任や担当保育士と保護者が話をする機会が少なかった。園の様子を知らせる工夫が必要。
6	運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・会計士による指導を受けながら、適切な事務が行われている。 ・年3回の理事会評議員会、公認会計士による会計監査等の指導の下、子どもたちに必要な環境を整えたいと努力している。 ・今年は、残業も少なくよかった。 ・就業時間を守るよう仕事内容など見直したい。

4. 総合的な評価結果と今後の課題

- 今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策など、様々な対応をしてきた中で、新たな発見や、気づきを与えられた。また、各職員が自分の立場を考え、協力し、それぞれに努力する姿勢が伺えた。
- コロナ禍でオンラインの研修が増えたことで、多数の職員と共通の理解を得ることができたことは良かった。
- 本務、非常勤を問わず、学びたいという意欲がある。今後の課題として得たものをさらに全体での共有事項にするにはどうすればよいかを考えたい。
- 園全体で【報・連・相】を意識して取り組んでいきたい。
- コロナ感染予防対策の中で、行事の見直しや送迎の対応など保護者の協力を得てきたが、保護者アンケートから、子どもの様子が見えないことや担任、担当保育士との話が十分にできなかったことなどが見えてきた。今後、発信の方法を考えていきたい。

5. 学校関係者評価

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、感染予防に努めながら、日々の保育が行われたことと思います。コロナ禍においても、唐津ルーテルこども園の「教育方針」に即した年間カリキュラム・月案が立てられ、日々の保育（日誌）が丁寧に行われています。特に日誌に記されている特記事項等を見ると、保育者が一人ひとりに寄り添っていることが伺えます。中でも、未満児の日誌には一人ひとりの名前が記され、日々の様子が記入されていることと、以上児の日誌には全体の気づき・考察がなされていることからそのことがわかります。園の教育方針にある「一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す」が実践されています。

監 事 岩切 雄太

業務監査の結果、特に指摘事項はありません。コロナ禍の元、園長および職員皆様方の日常のご活躍に感謝いたします。自己評価につきましては、評価をいたしますが、職員の多忙な日常業務を考えると、簡素化が必要かと思えます。

監 事 波田 公男

6. 財務状況

学校法人佐賀ルーテル学園の令和3年度3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び、同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

公認会計士 藤崎 武
公認会計士 坂田 達哉

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は、適正に行われていると認められています。

監 事 岩切 雄太
監 事 波田 公男